

会議結果のお知らせ

開催した会議の名称

別府市図書館・美術館整備構想策定等支援業務委託検討委員会 第4回会議

開催日時

平成30年12月1日(土) 9:35~11:35

開催場所

別府市役所4階 4F-2 会議室

出席者

委員 塚田俊三、中野伸哉、平石栄二、阿南寿和、原田勲明、稲尾隆
事務局 高橋修司社会教育課長ほか2名、受託事業者 OpenA3 名

次第及び議題

次第 (PDF①)

(1) 報告 (PDF②)

(2) 審議

① 建設候補地について (PDF③、PDF③-2)

② グランドデザインについて (PDF④)

③ その他

主な審議内容及び会議録の概要

次第に基づき、議題について事務局から説明し、委員から意見を徴した。

【事務局説明】

- 11/16 に開催されたオープンプラットフォーム会議には、164 名が参加した。来場者から、「不登校の子どもたちの居場所や夢をかなえたい子どものインキュベート¹拠点になってほしい」という意見や、「交通インフラの整備の充実」、「高齢者にも使いやすい施設」を期待する意見が寄せられた。

¹ インキュベート：孵化させる（保温して育成させる）、支援・育成する

- アンケート結果によると、新図書館・美術館に期待して参加したという方が圧倒的に多く、そのうち75%の方がイメージが変わったと回答しており、新しい図書館・美術館は従来の公共空間とは異なるというイメージ共有が図れた。
- 前回会議では、建設候補地の立地条件評価項目を決定した。候補地は、一定程度の面積を有する市有地の中から、速やかに計画に着手可能な4箇所を選定したので、本日の会議での議論をふまえ、できるだけ早い時期に決定したい。
- 図書館についての事例紹介。ニューヨーク公立図書館では高額なニュースやデータに個人が安価でアクセスできる。オガール紫波²は民間資本によるスキームを活用してマルシェの収益を図書館のランニングコストに配分している。八戸（青森県）ブックセンターは本屋を行政が運営している。台湾の誠品書店は本屋と雑貨屋などが混在し、本のテーマに併せて雑貨販売やワークショップを開催している。
- 美術館についての事例紹介。「TURN」は障がいをもった方によるアート展で視覚や聴覚を絶った状態でも展示の内容を感じ取ることができる。「ダイアログインザダーク」は、視覚を閉ざし視覚障がいの方にナビゲートしてもらい体験する場で、企業研修などでよくつかわれている。いずれも常設ではない。

【委員の主な発言要旨】

- 1 オープンプラットフォーム会議報告について
 - 聴衆として参加したが、発表を聞き、今まで明確なイメージができなかった図書館・美術館に付加する「+αの機能」について、実現可能性が大いにあると実感した。
- 2 (1) 建設候補地について
 - 図書館・美術館を建設するためには、用途変更をしなければならない場所はあるか。
 - 用途上の制限はないが、敷地によっては高さの制限、建ぺい率の制限はある。
 - 別府公園文化ゾーンの名称には歴史的な理由があるか。
 - 昭和53年の総合計画には、自衛隊跡地を払い下げるにあたり、国への説明として文化的施設を建てるゾーンと位置づけ、文化ゾーンという名称にしたと記載されている。
 - 山の手中学校の耐震性はどうか。既存建物を活用できるのか。
 - 学校と図書館は耐震基準値が異なるため、学校を基準とした数値で耐震基準を満たしていても、図書館を基準とした数値は満たされていない可能性

² 岩手県紫波町（人口3万3,800人）に建設された官民複合施設。補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進め、全国から注目を集めている。

がある。

- 温泉プール跡地は敷地が狭いので、オープンスペースを作る上では不足している。
- 別府公園に建設する場合、樹木は伐採するのか。
- 「別府公園」の中には、比較的樹木の少ない文化ゾーンも含まれており、文化ゾーンにまとまった施設を建て、公園内にサテライト機能を持たせるという考え方もできる。
- 説明を受けると「別府公園」の範囲が広いことがわかるが、一般的には正方形の公園部分をイメージするのではないか。市民感情に配慮するならば、文化ゾーンを「市役所西側隣接地」などの別の名称に改めるほうが良い。
- 公園に建物を建てた事例があるか。
- 現在進行中の海浜砂湯も上人ヶ浜公園に建物を建てる事例の一つであり、別府公園東側の駐車場も現在カフェを公募している。公園内には建物が建てられないという固定概念があるが、法律的にはそういった制限はない。大きな建物を建てるのを防ぐために建ぺい率が 12%と厳しく設定されている。
- 別府公園文化ゾーンは、駅からの距離、学校が周りにあり学生が来やすく、別府公園の借景や、観光客も来やすい、また駐車場が確保しやすい。なおかつ、これまでイベント利用などもされている点などから市民が認識しやすい。プール跡地と南立石公園は交通アクセスの課題があり、山の手中学校は既存建物をリノベーションする可能性もあるが、その分空間の制限が大きく計画しづらい。
- 別府公園文化ゾーンは、現在ビーコンの駐車場として活用されているので、現状の駐車台数を確保し。さらに図書館・美術館の駐車場を整備することになると、周辺駐車場とのバランスも必要である。

2 (2) グランドデザインについて

- オガール紫波の図書館とマルシェの連携を聞き、別府でも別府公園で農林水産祭を開催し大きな成果を得ている実績から、オガールの事例を参考にできる可能性が高い。
- オープンプラットフォーム会議は、あくまでも方向性を共有する場として位置づけ、実際に希望する事業者が参画できるようにすべきである。
- ニューヨーク公立図書館の事例のように、有料のニュースやデータを安価で提供できるとよい。「知の拠点」とは、情報にいかにしてアクセスできるかがいちばん重要なポイントになってくる。
- 健常と障がいの線引きをどこで設けるかは難しく、障がい者ではなく多様性と考えるのが大切である。いま健常な人でも将来的に身体的・知的な障がいを受ける可能性がある。障がい者はその未来をわかりやすく示している。
- 機能性の + α の部分が最も重要である。大分県立の立派な図書館や美術館がすでにあるので、別府はそれに対抗する必要はない。適正な規模のもの

を造り、+αの部分で最重要事項に掲げ、考えていくべきである。

- 蔵書数を誇るだけの図書館はもはや不要である。
- 別府でのこれまでの（アート関係の）試みが評価されているので、全国の福祉/アートの分野の人は別府市にできる新たな図書館・美術館にすごく注目している。これまでの常設展を繰り返すようなことはやってはいけない。
- 別府ならではの、エッジの利いたコンテンツが必要である。
- 今後のグランドデザインコンセプトの肉付けは、来年度以降の基本計画で議論することであるが、今の段階では漠としているので、グランドデザインについてもある程度まとめて、基本計画につなげる一定程度のリアリティのあるものが必要である。

以上